

平成27年度 理事会・通常総会開催



平成27年度 理事会



平成27年度 通常総会

2015年(平成27年)7月13日(月)ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて長崎日米協会の平成27年度理事会及び通常総会を開催いたしました。

通常総会には約30名の会員が出席され、総会の冒頭で宮脇会長が「今年は、長崎市とセントポール市との姉妹都市締結60周年の節目の年であり、両市とも互いに訪問団を派遣し、節目の年をお祝いする予定であります。長崎市とセントポール市との姉妹都市交流事業は日米親善交流の象徴ともいべき活動だと思っております、今後もさらに姉妹都市交流が継続できるよう願っています。」と挨拶されました。その後、平成26年度決算報告、平成27年度事業計画等の各議案の審議が行われ、各々承認されました。

思っており、今後もさらに姉妹都市交流が継続できるよう願っています。」と挨拶されました。その後、平成26年度決算報告、平成27年度事業計画等の各議案の審議が行われ、各々承認されました。

講演会・懇親会開催

2015年(平成27年)7月13日(月)ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて、長崎南ロータリークラブおよびマクドナルド友の会との共催による講演会を開催いたしました。幕末に日本へ来航したペリー提督の兄の玄孫にあたる野生生物学者マシュー・C・ペリー氏より「ペリー提督と日本の結びつき～過去と現代～」と題し、ご講演いただきました。ペリー提督が日米親和条約を締結するまで1カ月以上日本に滞在し、横浜でペリー提督から日本側に蒸気機関車と電話線のプレゼントがあったことや、日本人を招いて船上でパーティーを開き、バーボンやマディラワインを振る舞ったという事実があったことなど、親族しか知り得ないお話を聞くことができました。



講演をされる
マシュー・C・ペリー氏



通訳の前田氏とペリー氏

第24回長崎県高等学校英語スピーチコンテストに後援



第1部優勝者
湯河英里子さん(長崎西高2年)



第2部優勝者
吉岡航輝さん(長崎西高1年)



大会参加者

2015年(平成27年)10月10日(土)長崎県立長崎西高等学校に於いて、「第24回長崎県高等学校英語スピーチコンテスト」が開催されました。大会には、県内から16名が参加し、第1部(海外滞在未経験者)と第2部(海外滞在経験者)の部門に分かれて各々熱弁を揮いました。第1部の優勝者は、湯河英里子さん(県立長崎西高校2年)。「For a brighter future」と題して「過去の戦争の歴史を検証することも大切であるが、歴史に囚われるのではなく、明るい将来を創造すべく各国、各人が互いに議論し行動すべきである」と熱く語りました。第2部の優勝者は吉岡航輝さん(県立長崎西高校1年)。「Debate and Young People in Japan」と題して「ディベートではいかに論点を客観的に分析、立証し相手を説得するかが重要である」と海外での生活の中で感じたことを題材にして語りました。長崎日米協会からは優勝者に副賞を贈呈いたしました。

長崎・セントポール姉妹都市締結60周年記念特集

Nagasaki City Saint Paul City 1955 ～日本で最初の姉妹都市締結～

長崎日米協会セントポール市を訪問

長崎市と米国ミネソタ州セントポール市は1955年(昭和30年)に姉妹都市締結を交わしました。2016年(平成28年)6月末現在、日本の各都市と外国の都市との姉妹都市の締結数は1,695件です。その第1号が長崎市とセントポール市となっており、今年締結60周年を迎えました。締結以来両市は民間人が中心となり、地道に草の根的な交流活動を続けてきました。2015年は終戦70周年の節目の年と重なり、両市が互いに訪問団を派遣して未来志向に立った民間交流を行いました。8月には田上市長と共に長崎日米協会から宮協会長、中村副会長、殿村理事、他会員がセントポール市を訪問し、締結60周年記念セレモニーに参加いたしました。



セントポール訪問団
於：セントポール市役所

右から宮西SPCC会長、
ブラッチリー米SPCC会長、田上市長、宮協会長

長崎・セントポール姉妹都市締結60周年記念寄稿

～留学を終えて～

活水高等学校Ⅲ年 永石 菜々子

私は平成26年8月から平成27年8月までの1年間ロータリーの交換学生として、またセントポール長崎姉妹都市交換学生としてアメリカミネソタ州セントポール市に派遣されました。私は主に3つの目標を立て、それらを達成することに努めながら、貴重な1年間を過ごしました。

1つ目は異文化理解と交流です。日本と遠く離れたアメリカは生活様式をはじめ、考え方、文化などが大きく異なっています。特に学校では、私が留学生だと気付いてもらえないほど、多くの人種が集まっていることに驚きました。学校という身近な環境がグローバル化していて、それが生徒たちに大きな影響を与えているとつくづく感じました。また友達も先生もお互いの人種や立場を尊重し合い同じ人間として接してくれるので、私が留学生であろうとなかろうと、特別扱いせず普通の生徒として接してくれました。はじめは留学生扱いされない環境に戸惑いを感じましたが、今ではその環境が私のチャレンジ精神を養ってくれたのではないかと思います。



ホストシスターの作ったオラフ

2つ目の目標は平和活動を広めることでした。核保有国であるアメリカが、原爆投下についてそして核兵器についてどう思っているのか、私はとても興味がありましたし、長崎の被爆者の方から受け継いだ平和の想いを多くの人に伝える良い機会だと思いました。学校や平和のイベントなどでプレゼンをし、核兵器反対の署名も目標の1000筆を集めることができました。私の意見や考えを共有するだけでなく、ワークショップなどでも同じ世代の意見を聞き、アメリカからみた原爆が落とされた理由や、核に関する考え方を学ぶことができました。

3つ目の目標は姉妹都市の絆をさらに深めることでした。今年は長崎セントポール姉妹都市協定が60周年という記念の年です。私はこの記念すべき時に交換学生として派遣させていただき、記念式典にも出席することができたことは何よりの幸せでした。またこの姉妹都市交換プログラムが両国の友好関係に深く関わっていることも知ることができました。記念行事では多くの姉妹都市交換学生だった方達がこの式典のお手伝いをされていました。私も平和の象徴でもあるこの姉妹都市関係を、より深いものにするお手伝いをこれからも続けていきたいと思っています。

私はこの一年間で、自分から1歩踏み出す勇気や努力する大切さを学ぶことができました。しかし、英語力をはじめ、まだまだ勉強しなければならないことがたくさんあります。この留学で得た経験を糧にして、残りの学校生活も有意義に過ごしたいです。



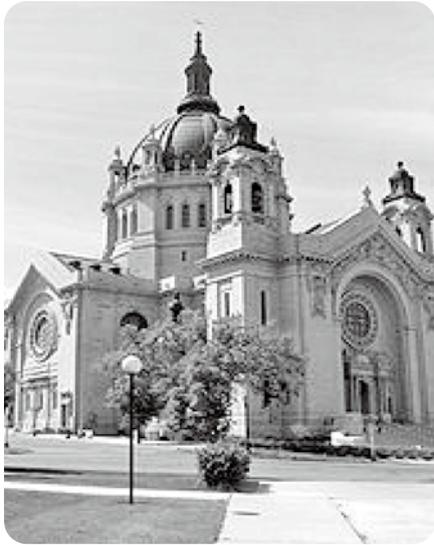
高校のフットボール場



初めての雪ダイブ

セントポール市と長崎市、共に紡いだ60年～そして次世代へ

長崎セントポール姉妹都市委員会 会長 宮西 隆幸



市のシンボル セントポール大聖堂



セントポール市長訪問団歓迎祝賀会
2015年(平成27年)10月7日 於: ガーデンテラス長崎ホテル&リゾート

写真のすべての人が心から笑っている。こういう写真はなかなかないと思います。2015年(平成27年)のくんちの初日にセントポール側20名と長崎側67名が参加し姉妹都市提携60周年を記念してお祝いしました。

最も古い姉妹都市が誕生し、人であれば還暦。60周年を迎える少し前に、セントポール近郊にあるGrotto財団のオフィスでLouis F. Hill氏にお会いする機会がありました。

セントポール側の姉妹都市委員会を發起し、1955年当初から市民主体で運営を始められたLouis W. Hill Jr.氏のご子息です。その折、誕生にまつわる質問をしました。Louis W. Hill Jr.氏は、ミネソタ州セントポール市に生まれ、エール大学で歴史学を修め、若くしてミネソタ州議会議員として活躍する一方、版画絵を通じて日本に強い興味を持っておられたようです。アイゼンハワー大統領(当時)が市民の相互理解を促進する目的で過去の対戦国と姉妹都市交流を結ぼうと考えた際、彼がセントポール市の相手として長崎市を大統領に直々に薦めたことが発端だったということでした。今度は彼からWhat is your vision for the 60th anniversary?と質問されました。少し間がありましたが、The next generation.と答えました。彼は大きくうなずいてくれました。



Louis F.Hill 氏

次世代を意識して2007年(平成19年)に始めた「歌の千羽鶴」派遣団は、高校生中心の合唱チームで、セントポール市コモ公園で行う長崎平和祈念式典に参加し横山鼎作詞大島ミチル作曲の「千羽鶴」を歌うのですが、2015年(平成27年)は4度目の派遣となりました。2005年(平成17年)から始まったジュニアテニス派遣は、本年2016年(平成28年)8月に実施の運びとなりました。委員会ベースでは、このほか、ボーイスカウト、ガールスカウトの交流支援、音楽交流支援等も行ってきました。

今回新しく、写真展を企画しました。これは、両市の高校生に呼びかけて、自分の住む街を若い感性で撮影し、その表現の場として、両市で写真展開催するものです。両市から100点を超える優れた作品が集まりました。2015年(平成27年)10月に長崎で開催した写真展には、5日間で700名近い市民が来場し、「高校生の作品とは思えないくらい素晴らしい」「交流が長く続くことを祈る」「行った事のない国の風景など見ることができた」「いろいろな風景が切り取られていて、興味深かった」等のコメントを残してくださいました。

姉妹都市交流では、ひとりひとりが、自分が楽しめるような交流をすることで、交流の輪が広がります。

これからも、さまざまな世代の人々が交流を楽しみながら、次の60年を築いてくだされば、これほど素晴らしいことはないと思います。

ユーリー・R・フェッジキフ首席領事離任

2016年(平成28年)6月、在福岡米国領事館のユーリー・R・フェッジキフ首席領事が福岡での3年の勤務を終え離任されました。フェッジキフ首席領事には、2013年(平成25年)8月に着任以来、キャロライン・ケネディ駐日大使の来崎、講演会でのご講演、クリスマスパーティへのご参加など多方面にわたりご協力、ご支援をいただきました。また、ご在任中に西海市や五島市も訪問され小学校、中学校、高校で生徒を対象としたご講演も積極的に行われました。

活動的で温厚、気さくなお人柄は多くの方々から親しまれ、長崎での日米親善に多大なご尽力を注がれました。

新任地はパキスタン総領事館とのことです。フェッジキフ氏の長崎でのご功績に心から感謝申し上げるとともに新任地でのますますのご活躍をお祈りいたしたいと思っております。



福岡市内で行われた歓送会
写真後方右から3人目がフェッジキフ氏

トーマス・ホイットニー 政治・経済担当領事来崎

2015年(平成27年)9月2日、在福岡米国領事館に新しく着任されたトーマス・ホイットニー政治・経済担当領事が長崎を訪問されました。ホイットニー領事はイェール大学で社会学を専攻され、卒業後は一時中学校で教鞭をとられた後、ビジネス関連の翻訳・編集サービス事業の経営を経て国務省に入省されました。このたび、横浜での研修を終えられ、在福岡米国領事館に着任されました。ホイットニー領事は(株)長崎経済研究所 中村政博主席研究員と面談、長崎の経済の現況について尋ねられ、長崎日米協会の宮脇雅俊会長と長崎における日米親善の活動についてお話を交わされました。



中村主席研究員と長崎経済について対談



宮協会長と親善活動について対談



宮協会長とホイットニー領事

長崎日米協会・長崎日英協会・セントポール姉妹都市委員会 合同クリスマスパーティー開催



挨拶されるドミニク・ソー領事



挨拶される宮協会長



アーニー・ソー氏(中央)
(ドミニク・ソー領事の父)

2015年(平成27年)12月11日(金)ANAクラウンプラザホテル長崎グラバーヒルに於いて、恒例の長崎日米協会・長崎日英協会合同のクリスマス夜会を開催いたしました。今年は、長崎市とセントポール市が姉妹都市締結60周年の記念の年ということもあり、セントポール姉妹都市委員会の皆様にもご協力いただきました。

今年で7回目となる本パーティーには、在福岡米国領事館ドミニク・ソー領事、里見 晋長崎県副知事、田上富久長崎市長が来賓として参加され、また両協会の会員の他長崎在住のALT(英語教師)、CIR(国際交流員)、留学生などの英米圏出身者や英米両国の関係者など過去最高の約150名の方々にご参加いただきました。

今回は“Let's shake hands and talk together!”をキャッチフレーズとして両協会会員と英米の参加者との会話による交流をテーマとして取り組みました。会場内では身振り手振りを交えた片言の英語と日本語が飛び交い、終始和やかな雰囲気の中楽しいひと時を過ごしました。

米国から贈られた青い目の人形「リトルメリー」 島原市有形文化財に指定される

島原親善人形の会 事務局長 北田貴子

1927年（昭和2年）、排日移民法の成立をきっかけに日米関係が悪化した時代、「世界の平和は子どもから」と日米の子ども達の友好を願い、シドニー・ルイス・ギュリック博士の提唱でアメリカの子ども達から日本の子ども達へ贈られてきた約12,700体の青い目の人形達。

日本側は渋谷栄一さんが中心になり文部省をとおして全国各地の小学校や幼稚園へ贈られ、大歓迎を受けました。その願いも叶わず、戦争がはじまり、その多くの青い目の人形達が、敵国の人形として焼かれたり壊されたりして今では全国にわずか約300体、長崎県では当時214体贈られてきた中の2体しか残っていません。

「リトルメリー」はその中の貴重な1体で、お雛さまの箱の中にこっそり隠されていました。そして現在も島原第一小学校で大切に保管され、「平和の使者」として‘心のありかた’について語りかけています。そしてもう1体が平戸幼稚園に残る「エレン・C」です。

また、当時アメリカから贈られてきた青い目の人形達のお礼として、日本の子ども達からアメリカの子ども達へも各県代表の58体の市松人形が答礼人形として贈られました。長崎県から贈ったミス長崎「長崎瓊子」も長い間行方不明となっていました。アメリカのニューヨーク州ロチェスター市のロチェスター市科学博物館にて保管されていることが確認され、2003年（平成15年）春に75年ぶりに長崎へ里帰りし、青い目の人形達とともに県内で巡回展を行い大反響をよびました。



長崎県に残っている2体
青い目の人形「エレン・C」(左)と「リトルメリー」(右)



島原親善人形の会のメンバー 親善人形達を囲んで

私達、島原親善人形の会では、その里帰り展をきっかけに長崎・島原における親善人形交流の歴史と意義を次世代の子ども達に伝えていこうと、2003年（平成15年）7月に発足以来、活動してまいりました。そしてその後、ギュリック博士のお孫さんのギュリック三世様より、島原第三小学校へ「アンナ」、島原第一小学校へ「ジョアンナ」が新友情人形として贈られ、毎年、春うらかな桜の季節に島原城で「リトルメリー」を囲んで親善人形達が勢揃いし、貴重な島原における日米親善人形交流の歴史の資料などの展示や国際交流イベントとしてお茶会などを開催し、日米友好親善と身近な相互の理解から考える国際理解のあり方について再認識してもらえればと企画しています。

またこの度、2015年（平成27年）12月1日には、「リトルメリー」はその貴重な存在としての使命が認められ、島原市有形文化財に指定され、2016年（平成28年）3月には島原市より「特別住民票」、またギュリック三世様より、お祝いのメッセージや新たなパスポートが再発行されました。

今年度は青い目の人形「リトルメリー」が島原市有形文化財に指定された記念の企画展として、さまざまな催しを開催。そして県内に残るもう1体の青い目の人形「エレン・C」（平戸市立平戸幼稚園）がお祝いにかけつけ、県内に残る2体が島原城に揃って展示され、「リトルメリー」と「エレン・C」が時を超えて私達に、身近な相互理解と日米親善人形交流の意義など大切なメッセージを発信してくれました。



島原市有形文化財指定記念ほのぼのセレモニーの様子

島原親善人形の会では、これからも「リトルメリー」とその歴史と意義を‘島原の宝’として、身近な相互理解や国際理解と友好親善と平和の大切さについてじっくりと伝えていく活動に取り組んでいきたいと思っております。

こんにちは！ウィリアム・モーガンです！



William Morgan

ウィリアム・モーガン
長崎県文化観光国際部国際課 国際交流員

Work hard, play hard.！ 仕事も遊びも全力で！

プロフィール

米国、バージニア州のシャーロットビル市出身。
バージニア大学で国際関係と東アジア研究を専攻。
2013年から2年間、五島市の小中学校で外国語指導助手を経験後、
2015年の夏から長崎県国際課へ国際交流員として活躍中。
趣味はブラジリアン柔術。

国際交流員を希望した理由

勉強してきた日本語、日本文化の知識を生かして仕事をしたいと思ったから希望しました。アメリカなどの西洋文化を自分から一方的に伝えるのではなく、日本の職場での習慣を受け入れて、日本社会で活躍し、そして他人の役に立ちたいと思ったからです。現在、国際交流員として色々な場面で国際交流する機会を通じて楽しく働いています。

事務局より

会員募集中！

長崎日米協会では新規入会の会員を募集中です。会員の皆さま方の中でご紹介いただける方がいらっしゃいましたら是非ともご入会をお奨めいただきますようよろしくお願いいたします。

会費	個人会員	年会費	2,000円
	法人会員	年会費	10,000円(1口3名まで)

編集後記

○ご存知でしたか？終戦直後の1945年(昭和20年)9月4日に連合軍の俘虜救援活動のため長崎へ飛来した米軍機B29が、佐敷岳を望む藤田尾町付近に墜落したことを。搭乗員14名中13名は亡くなりましたが、地元の方々により1名が救出されたそうです。昨年、その犠牲者のお名前が刻まれた追悼碑が建立されました。記念碑の除幕式には奇跡的に救助されたグレン・ホルン氏のご遺族が出席され、「長崎の皆様方の懸命な救助のおかげで今日の私たちがあります。」と話されました。追悼碑は市内香焼中学校のグラウンド脇に建立されています。ぜひ一度、訪れてみて下さい。

○米同時テロの影響で2002年を最後に中断していた佐世保の日米交流イベント「SAIKAIアメリカンフェスティバル」が昨年13年ぶりに復活しました。西海国立公園指定60周年記念として催されたものです。大きなステーキ！佐世保バーガー！今年も楽しみです。

長崎日米協会事務局

〒850-8618 長崎市銅座町1番11号 十八銀行本店
TEL 095-828-8859 FAX 095-821-0214

〈事務局：安田・末吉〉